

# 初期研修のあゆみ

## 内科研修の1日

(呼吸器内科・総合内科)

# 1

## 自己紹介 ～呼吸器内科～



呼吸器内科研修中

浜松医科大学出身 戸田 愛理（とだ あいり）＜左＞

自治医科大学出身 鈴木 拓己（すずき たくみ）＜中央＞

浜松医科大学出身 大角 博志（おおすみ ひろし）＜右＞です。

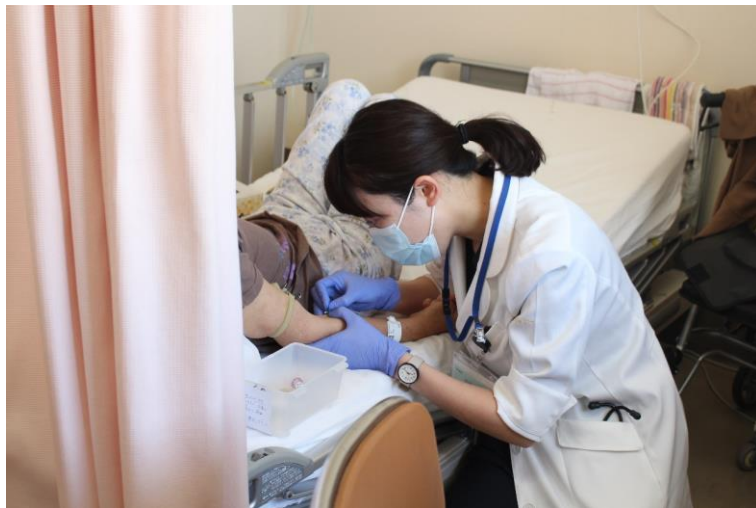
呼吸器内科では13名もの指導医・上級医の先生方から充実した指導を受けられます。

上級医の先生方は、電子カルテの使い方もわからない自分にとっても熱心に指導をしてきて、呼吸器内科をローテーションしてとてもよかったと思っています。研修していてわからないことは直ぐに上級医に質問でき、手技も採血も経験させていただいてるので、毎日がとても充実しています。（大角）

# 2

8 : 00

採血  
～呼吸器内科～



呼吸器内科の研修中は、8 : 00から病棟の患者様の採血を行います。何度も針刺しの位置を確認してから採血を行います。

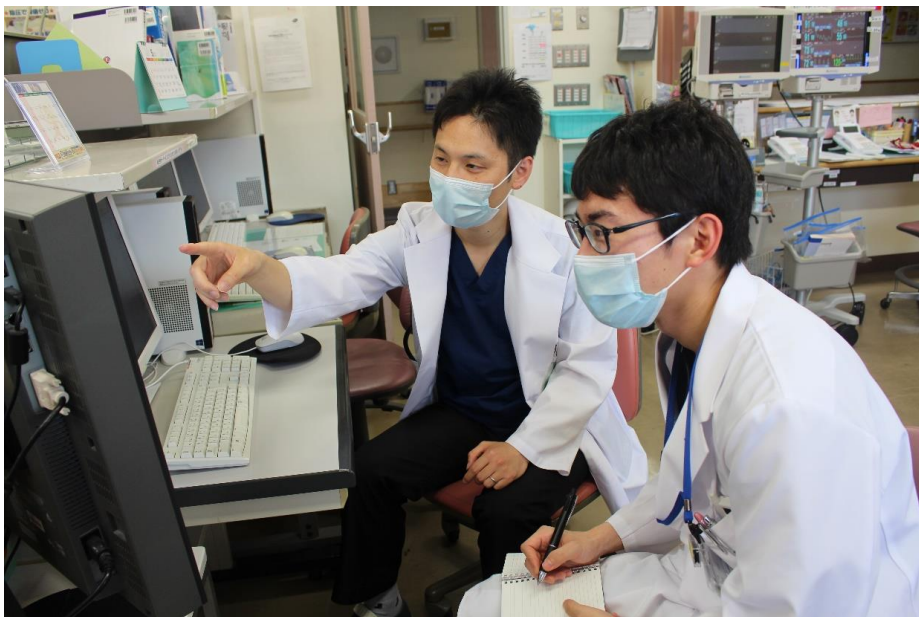
患者様に不安を与えないように声をかけながら採血するように心がけています。



# 3

## 10 : 00

上級医からの指導  
～呼吸器内科～



上級医の北原先生(卒後5年)から肺炎の画像を診ながらの指導をして頂きました。指導してもらったことはすぐにメモをとるようにしています。

# 4

## 17:00

### 手技練習

### ～呼吸器内科～

毎週 水曜日・金曜日の17:00からメディカルスキルアップセンターで気管支鏡を使ってトレーニングを行っています。何回も練習してから実際に患者様の検査を行います。

上級医がいつでもアドバイスをしてくれます。



# 5

## 自己紹介 ～総合内科～



総合内科研修中

名古屋市立大学出身 初期研修医1年の藤田 侑美（ふじた ゆみ）です。〈右〉

県総での研修は自分が想像していたとおり、症例も手技も多く経験できます。今は総合内科をローテーションしていますが、違う診療科の先生も色々なことを指導してくれます。当直時も画像を診ながら丁寧に指導してくれるので県総で研修を始めてよかったと実感しています。

滋賀医科大学出身 初期研修医1年 松下 智紀（まつした ともり）です。〈左〉

総合内科を研修していますが、日々成長していると実感できます。

総合内科は、外来診療・病棟・手技と数多くできる診療科です。

指導医の袴田先生もとても協力的でいろいろなご指導をいただいています。

# 6

## 7:30 朝の勉強会 ～総合内科～



総合内科の1日は7:30から始まります。  
毎朝、英語の読書会を行っています。

# 7

## 10 : 00

外来  
～総合内科～



静岡県立総合病院は、プログラムとして必修となる前から、一般外来の研修を取り入れています。

近隣の診療所から紹介を受け、病名がハッキリとしない患者様を診察しています。問診した上で、必要な検査をオーダーし、結果を受けて、所見を上級医へ相談するという外来診察の一連の研修をします。

この日は70代の女性の診察を担当しました。腹部と背部の痛みを訴えている患者様に対して、いつ頃からその痛みがあるのか、また普段の様子、ここ1週間の体温などを詳しく聞き、診察にあたっています。



# 8

14 : 00

病棟  
～総合内科～



担当している患者様について、病棟や外来で情報を共有します。切磋琢磨できる同期が大勢いることも静岡県立総合病院で研修する強みです。

# 9

## 研修医 医局

研修医の先生方の医局です。当院は初期研修医1・2年生合わせると40名以上の研修医がおり、お互い悩みを相談したり、コミュニケーションをとったりしています。



# 10

## 上級医からの メッセージ

### ★頑張る 後輩たちへ

研修医1年生のこの時期は、もちろん自分の志望する科、そうでない科どちらもあると思いますが、今、回っている科のことを一生懸命やってほしいです。

EBM(evidence-based medicine)も大事だが、NBM(narrative-based medicine)も大事です。また、いろいろな上級医のスタイルを学ぶことも大事です。そして、学んだ中で自分のスタイルを確立してもらいたいと思います。

岸本 祐太郎 先生(呼吸器内科 卒後7年)

